

みる つくる かたる

APPRECIATE

DISCUSS

CREATE



VOL.27 NO.2
(通巻82号)

2000

ART NEWS 千葉県立美術館



千代倉桜舟「雲」

1977 (昭和52) 181.5×91cm 紙・墨 成田山書道美術館蔵

墨の黒が、制作時の作者の熱気、沸き上がる情熱を留めたまま、紙に染み込んでいます。

画面の下から上へと向かう螺旋運動は、たっぷりと墨を含んだ始点から白地と同化する終点まで、この作品に上昇感を生みだし、軽快さを付加しています。

「雲」という文字の形を作品に見出すのは困難ですが、雲をイメージするのは容易です。

千代倉桜舟は、「愛・焰・夢」を人生観に、書芸術の可能性を模索し、世界を巡りました。古代遺跡などで得たインスピレーションを創作のエネルギーに換え、スケールの大きな作品を数多く残しました。

画面の下から上へと伸びる3つの動きは、燃え上がる炎のようでもあり、その動きが集結する白の部分は、新しい生命が誕生する場のようにです。

企画展 千代倉桜舟展

平成12年11月25日(土)～

平成13年1月28日(日)

企画展

「千代倉桜舟展」

＜『GO STOP』まで＞

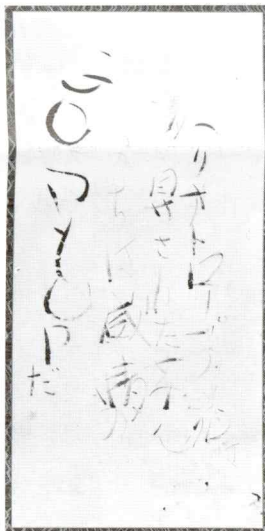


千代倉桜舟
〔ちよくらお
うしゅう・本
名 胖(ゆたか)
／明治45年
(1912)～平成
11年(1999)〕

は、君津市久留里町に生まれました。

当初、伊藤芳雲に師事し仮名を学び、師没後は独学で古筆を研究しました。また、仮名と平行して漢字を山口蘭溪に学び、戦前に興亜書道会二千六百年記念展漢字部最高賞、興亜書道連盟展仮名部最高賞を受賞するなど、確かな力量を示しました。

しかし応召で中国へ赴き、終戦後捕虜としてシベリヤに抑留されます。帰還後は、それまでの雅やかな書はもう書かないと決心し、書道芸術院展に斯界はじめてのアルファベット入りの問題作『ヘリオトロープの花は…』(別称『GO STOP』)を発表しました。



「ヘリオトロープの花は…」
一九四九(昭和二十四)

その後、主に書道芸術院を舞台に作品を発表し、前衛書の創作に励み、大沢雅休に師事。やがて現代書作家協会を結成し、書道芸術の可能性を求めて精力的に活動を続けます。

＜世界を巡る＞

千代倉桜舟は、世界の大自然から感化を受け、それを自己の創作エネルギーに換えて、力強い作品を発表し続けました。

昭和46年(1971)に書道教育でアメリカを訪れた折、デスバレー砂漠の絵文字に接したことが発端でした。この体験を通して、今回紹介する約40メートルの超大字かなの大作「いろは」を生み出します。



「いろは歌」部分 1978(昭和53)

以後、アメリカを拠点として、メキシコの古代文化遺跡、中国の天山方面の古代遺跡絵文字、インカ文明の遺跡、インド、エジプトなど、文字の根元を求めての旅が始まります。

この間、アメリカのインターナショナル大学院大学をはじめ、各大学で講義と実技指導に当たりました。



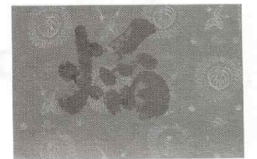
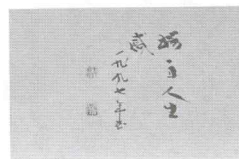
「沙漠はワビスビ外の美」 制作年不詳

＜展覧会＞

平成9年(1997)の第17回個展「心は宇宙」展に至るまで、燃え上がるエネルギーが形を求めるかのように、次々と力強い作品を生み出していきます。先の超大字かなの第6回個展は昭和53年(1978)で、以来20年の間に個展だけでも12回開催しています。一連の活動は、平成元年(1989)の第3回日本書道大賞、平成2年(1990)の第33回毎日芸術賞として結実します。また、群嶋書人会会長はもとより、千葉県書道協会会長、全日本書道連盟顧問、毎日書道会名誉顧問など、書道界の重鎮として書道芸術の発展に力を注ぎました。

＜愛・焰・夢＞

千代倉桜舟は、「愛・焰・夢」が人生観であると残しています。宗左近氏は、「…愛は燃え、炎となり、人の体を駆け巡り夢を生む。その夢がまた愛となり、巡り巡って宇宙となって千代倉さんの書の



「愛・焰・夢」 1997(平成9)

エネルギーを生み、嵐となっている」と、その活動と言葉とを激賞しています。

本展は、初期から晩年に至る作品36点に、関連資料を併せて展示し、千代倉桜舟の芸術活動を顕彰します。

開館時間／午前9時～午後4時30分
入場料／無料
休館日／月曜日
(ただし、12月26日(火)～1月4日(木)は年末年始休館、1月8日(月)は開館し、翌日休館)

【特別講演会】

企画展に関連し、特別講演会を行います。

日時：平成13年1月13日(土)
午後2時～3時30分

会場：千葉県立美術館 講堂
講師：宗 左近(詩人)

演題：「千代倉桜舟の宇宙」

定員：200名

聴講料：800円

申込方法：往復葉書に「特別講演会」希望と記し、住所・氏名・電話番号を記入のうえ、下記宛先までお申し込みください。

*申込多数の場合は抽選

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
千葉県立美術館 特別講演会 係

11月以降の
収蔵作品による企画展

●没後70年記念 石井林響展

11月11日(土)～12月10日(日)

本館では平成2年度に特別展で日本画家石井林響の画業を顕彰し、その後も調査と作品収集を進めてきました。

本展では林響の青年時代の明治末期から晩年の昭和初期までの歴史人物画、南画の影響を受けた田園風景画等の作品と資料を併せて約50点を紹介します。

●房総と近代美術(2)

12月16日(土)～1月28日(日)

本館では、房総ゆかりの作家を中心に近代美術作品の体系的な収集を行っています。

本展では松尾敏男らの日本画、ミレーらの洋画、高村光太郎らの彫刻、香取秀真らの工芸等、33作家45点の作品を紹介します。

●立体の魅力 彫刻

1月10日(水)～4月15日(日)

彫刻は、あらゆる角度から鑑賞できる芸術であり、また、作品にできる陰影も作品の一部と言えます。本展では彫刻の立体としての魅力を、感情表現をテーマに紹介します。

●自然との対話

2月3日(土)～3月25日(日)

自然は芸術表現の原点です。

本展では作家が自然と対峙しながら創作した作品を、「海と人間一挑む海、恵みの海一」、「天と地の間で」、「季節は巡る」、「懐かしき地」の4つのテーマで紹介しします。

●瑛九の銅版画

2月3日(土)～3月25日(日)

瑛九は美術評論や写真の実験、洋画、文学、俳句等に多彩に活動しました。1930年代にはシュルレアリスム等の前衛美術運動を推進し、戦後は版画で独自の世界を深めます。

本展では瑛九の銅版画作品を紹介します。

第24回
千葉県移動美術館

第24回千葉県移動美術館は、第1会場の和田町が終わり、第2会場の木更津市で開催中です。当館が所蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野の中から、44点の作品を展示しています。

今回は、バルビゾン派の流れを汲むフォンタネージの「牛を追う農婦」、日本近代洋画の先駆者・浅井忠の「葎屋根」、藤田喬平の華麗なガラス工芸「飾篭・しだれ櫻」、世界的に著名な版画家・浜口陽三の銅版画「1/4のレモン」をはじめ、前衛書家・大野虚舟(木更津市出身)など、開催地の関係作家の作品も展示します。

お近くの方は、この機会にぜひ御鑑賞ください。

◆木更津駅前ホール

TEL 0438-22-2491

11月25日(土)～12月10日(日)

午前9時から午後4時まで、会期中は無休です。



「バルビゾンの農場」 1850～55頃
テオドール・ルソー

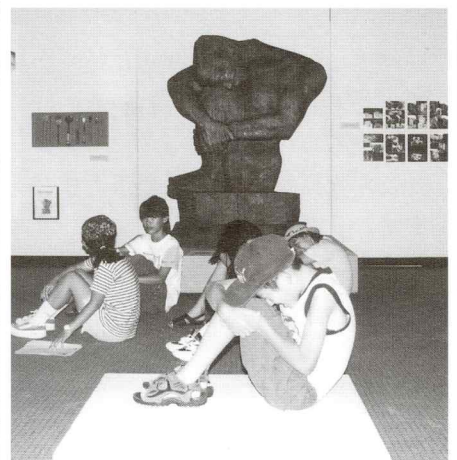
**展覧会及び
イベントの報告**

こどものための展覧会
すごい！そのエネルギーはどこからくるのですか？

芸術家の仕事を氷山に例えるならば、水面上に見えているのが「作品」で、作家は何を考えているのか、どういう人なのか、どのように制作しているのかということは水面下であって、普段目にするにはできません。しかし、水面下こそ創作の秘密や試行錯誤やエネルギーに満ちています。ここに焦点をあて、美術に対する興味と創作の喜びをこども達に感得して欲しいと本展を企画しました。10人の作家のアトリエを訪ねて創作にかかわるお話をうかがい、デッサンや制作途中の作品、愛用の道具等をお借りしました。本館収蔵作品、制作の様子が興味深い4台のVTR等と共に展示構成しました。こども達の声の一部を拾ってみます。

■「あっ、虫だ！」

小さなこども達は、入口近くの増田先生の虫や蝶のコレクションにかけ寄ります。よくみれば神秘ともいえるその形や模様が、版画作品の中で生まれ変わり、動き回っています。



モデルにチャレンジ

■「本物より本物みたい！」

伊牟田先生の作品と再現したモチーフを見比べ、迫真的な表現に固唾を飲みます。

■「仕事をする人形なんだ！」

深沢先生考案のメゾチント用電動ベルソーに、当館学芸員がつくった人形をセッティング。スイッチを入れると人形が機械を動かし始め(!?)、見事に溝が刻まれていきます。

■「えっ！描いていいの！」

一番人気の「本気で画家だスペース」。大きなキャンパスに、中野先生が使用しているアクリル絵の具と篠崎先生と同じペインティングナイフで描く子ども達のエネルギーはどこからくるのでしょうか？



ふれてみよう

こどもワークショップ

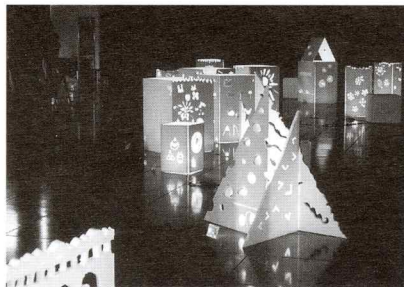
「美術館はおとなが楽しむところ！こどもが行ってもわかるわけないだろう…」

こんな言葉はもう死語だと感じます。これからの美術館は…「こどもも楽しめる！親子だったらもっと楽しめる」という言葉がフィットするアミューズメントパーク的な在り方を考えていくことも重要です。

今回企画したこの『こどもワークショップ』も“楽しめる”“わくわくする”参加体験型のプログラムです。この事業は、美術館の機能を積極的に活用して、こども達が楽しく学びながら身近に『アート』を感じ取れる美術館でしか味わえないエネルギーで躍動的な創作体験活動の展開を図ったものです。

21世紀を担うこども達の夢を育んでいきたい…こども達にも気軽に楽しんでもらう美術館でありたい…そんな願いでもあります。

「つくる」ことを全面に押し出したこのワークショップは、1日で行い「ワンデイワークショップ」と4日間単位でひとつのテーマに従い、自由に制作を楽しむ「フォーデイワークショップ」の2本の柱を設けています。



発泡スチロールオブジェ

現在までに、3回のワークショップを終了し、いろいろな創作体験（光り輝く発泡スチロールオブジェの制作／自動車にペインティング）を美術館内の展示室やアトリエで展開してきました。

今年度、開催予定のワークショップはあと1回です。美術館でしかできない・美術館らしいエキサイティングなイベントに参加してみたいはかがでしょうか！



自動車にペインティング

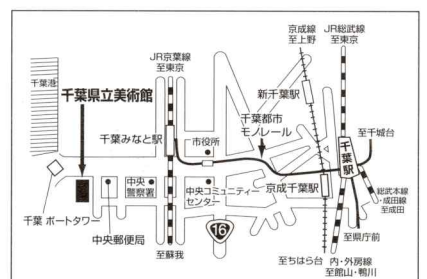
スポーツと美〜 こどもアートチャレンジ こども写生大会

10月29日(日)、千葉県総合運動場において、『こども写生大会』が行われました。当日は、前日からの雨にもかかわらず、22名のこどもたちが参加しました。10時からのオリエンテーションの後、全員がジャンパーやかっぱを着用し、冷たい雨をもろともせず、陸上競技場、武道館、体育館へと出かけて行きました。ほとんどのこどもたちが、終了時間(3時半)ぎりぎりまで頑張り、本部受付での「おかえりなさい。」の声に迎えられ、意気揚々と帰って来ました。結果として全員の作品24点(2点提出者2名)が集まりました。本館職員は、会場での助言や作品の批評書き等の手伝いをさせていただきましたが、作品1点1点の感想を記す際には、雨の中で頑張る姿がだぶりました。本大会の展覧会は、12月10日(日)まで、県スポーツ科学総合センター2階において開催中です。こどもたちの力作をご覧ください。

<美術館案内>

●JR「千葉」・京成電鉄「京成千葉」駅より「千葉ポートタワー行」バス15分「美術館・中央郵便局前」下車徒歩1分

●JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車徒歩8分



〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

☎043(242)8311(代)